

育成モノづくり人材

Vol. 93

埼玉県立熊谷工業高校

旧熊谷商工高校から分離・独立し、53年目を迎えた埼玉県立熊谷工業高校。建築、土木、電気、機械、情報



猪野校長

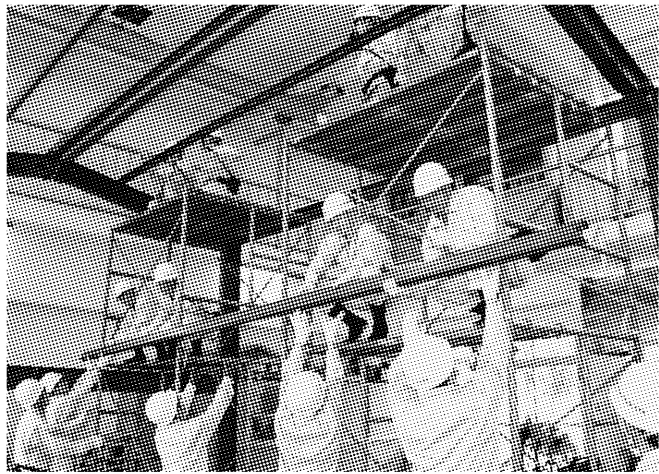
技術の計5科で構成される。土木科のある高校は県内では珍しい。科目としてインターシップ(就業体験)を1年次に実施する。地元の約120社が協力をし、生徒を4日間受

文武両道、地元の信頼厚く

校として知られていける。働くことの試験など、各種資格部や土木研究部などがある。猪野敏夫校長は、厳しさを学べる良い機会だ。2年生からは専門性に特化し、資格取得を教職員が一丸と取り組む。2年生からは専門性に特化し、資格取得を教職員が一丸と取り組む。2年生からは専門性に特化し、資格取得を教職員が一丸と取り組む。

【DATA】▷校長—猪野敏夫氏▷所在地—埼玉県熊谷市▷学科構成—建築科、土木科、電気科、機械科、情報技術科▷生徒数—約710人▷主要設備—水理実験装置、太陽光発電実習装置、CAD、マンニングセンターなど▷主な進路—東和建設、日本道路、太平洋セメント、三菱マテリアル、カルソニックカンセイ、東京電機大学、埼玉自動車大学校など

果たした。またソフトテニス部などもインターハイに出場しており、運動部が盛んだ。文化部では建築研究



実習で解体作業を行う建築科の3年生

実績も輝かしい。電気工事業・木材加工・電子回路組み立て・測量部門で17年に関東大会に進出した。木材加工と測量は17年の埼玉県大会で1位。16年の技能五輪全国大会では、社会人選手が多い中、この3年生は「4大進学会」で敢闘賞を獲得した。ここ数年は生徒の就職希望の153人に対して求人2883件。17年の10月にはこの生徒も就職が決まった。

猪野校長は「(求人が多い)秘訣は何か、とよく聞かれるが、当たり前前ことを当たり前にやっている」と話す。ただ、「OBの活躍が大きい」といい、信頼の積み重ねが結果に出ているようだ。生徒の将来について「モノを使う人の気持ちになってモノを作る人になってほしい。人工知能(AI)にはできない、温かさがにじみ出る技術者になって」と呼びかける。(さいたま・石井 著) (金曜日に掲載)